

4年ぶりの「蕨の会」は鎌倉に

塩川明男（幹事、6組）

コロナがようやく収まったのを機に4年ぶりに第16回「蕨の会」散策会を催行した。

場所は歴史のある古都、鎌倉。関賢治、小宮山豊、上原昇（2組）、原田義則（3）、丸山暢久、成澤文和（4）、塚田道明（9）、神宮進（10）、岡田修（11）と筆者（塩川）の10名が参加。

北鎌倉駅に参集し、近隣の円覚寺へ。鎌倉幕府の祈願所として栄えた禅宗のメッカであったとされる。昔社会の教科書にも載っていた国宝舍利殿を有する名刹である。唐様建築の代表と言われる舍利殿は日本に現存する最古のもの。「写真と違う」との議論も多少あり。

本来、紅葉がきれいな場所なのだが、今年は11月の暑さで紅葉が遅れ、楓の紅葉も疲れ気味の色であった。ここにはもう一つ国宝の洪鐘（おおがね）が存在するが、なんと100段余りの階段を登った丘の上。初めから敬遠したご仁も含めて足の衰えを先ず感じさせられた。

次に電車で鎌倉に向かい鶴ヶ岡八幡宮へ。参道の段葛を進み、前方の朱色の鳥居を目指す。改修前は石畳の風情のある道であったが、今や舗装され昔の風情はどこへやら。本殿を丘の上に臨み先ず集合写真。



前列左から神宮、上原、丸山、後列左から塚田、関、小宮山、岡田、原田、塩川、成澤

本殿前の階段脇には三代將軍実朝が、隠れていた公卿に暗殺されたと言う大銀杏の古株が残る。すぐそばに新しい銀杏が育ち、黄金色に葉を茂らせていた。ここでも階段を登ること60余段と足の鍛錬が続く。

昼食後、宝戒寺へ。後醍醐天皇が足利尊氏に命じて北条一族の霊を慰めるため建立された寺。季節には萩の花が咲き乱れると言う。

さて鎌倉と言えば源頼朝だがその墓が、八幡宮より徒歩 10 分の大倉山の中腹にあり、ここでも階段を 40 段ほど登る。方形の台石の上に五輪塔の笠石を積み重ねただけの質素な佇まいで、歴史上の重要人物の墓にしては寂しいものであった。

その後、鎌倉宮へ足を伸ばす。関君がその昔近くのコートでテニスの試合をしたとかで寄ってみることに。鎌倉宮は護良親王を報じ、明治天皇により創建されたお宮である。

次の目的地は江ノ電の長谷。ひたすら歩いて鎌倉駅へと向かうが長すぎて「疲れた」との声が上がり、小町通のコメダ珈琲店でしばし休憩。小町通には様々な店が並び、様々な人々が歩き、鎌倉で最高に込み合う通りである。

江ノ電は単線で住宅の軒先や庭先すれすれをちんちんと走る。

長谷では先ず大仏さんにご挨拶。大仏は皆さんの中学の修学旅行で集合写真を撮った思い出の場所であり、あれから 60 年と感慨にふける。大仏様は変わらぬ姿で鎮座しておられました。

そして最後の目的地である長谷寺へ。観音堂へはまたしても階段続き。我が国有数の木造仏として知られる高さ 9 m を超える十一面観音様をお参りし、展望台より由比ヶ浜海岸を望む。さらに上には紫陽花鑑賞のための回遊路が続き、登りついでに回ったが、今は癒しの花もなく疲れが増した。ここの紅葉も円覚寺と同様の状態であった。



鎌倉駅近くの居酒屋で懇親会

夕刻鎌倉に戻り、居酒屋で懇親会。原田君と上原君の間では今日の歩数計の話に。その後はスマホで恒例のHP上の昔の写真で高校時代を懐かしみ、たっぷり 2 時間飲み放題を楽しんで散会した。

(2023 年 12 月 4 日記)